令和７年度の変更点＆確認事項

◎令和７年度の変更事項

１．第５２回全日本中学校陸上競技選手権大会の標準記録の変更種目について

＜男子＞

・１００ｍ　１１″２０ → １１″１０
・２００ｍ　２２″７５ → ２２″６０
・４００ｍ　５１″６０ → ５１″４０
・８００ｍ　２′００″５０ → １′５９″５０
・１５００ｍ　４′０８″５０ → ４′０８″００
・３０００ｍ　８′５７″００ → ８′５５″５０
・１１０ｍＨ　１５″００ → １４″７０
・走幅跳　６ｍ５５ → ６ｍ６０
・砲丸投　１３ｍ００ → １３ｍ３０

＜女子＞

・１００ｍ　１２″５３ → １２″５０
・１００ｍＨ　１４″８０ → １４″６０
・走幅跳　５ｍ４５ → ５ｍ４０

２．令和７年度のＡＤカードについて

＊ＡＤカードの不正使用が確認された。顧問が容認しているケースもある。昨今の SNS による選手の写真などの拡散や盗撮防止のためにもＡＤカード管理を今後も継続する。以下にＡＤ使用のルールとして設ける。

①競技者用のＡＤカードを他の生徒が使用しないこと。
②サポート用のＡＤカードは、団体及び支部の中学生のみ使用できること。
③１枚のＡＤカードでは、２名以上は入場できない。
④保護者用ＡＤカードは、中学生や高校生は使用できないこと。基本的に顧問及び部活動指導員、選手の保護者のみ。
⑤高校生（選手の兄弟まで）以下の保護者同伴者は、ＡＤカードなしで入場ができる。
＊卒業生などの未成年は、原則競技場内には規制のため入場はできません。
＊紛失したＡＤカードを持って入場する不審者などもいますので、くれぐれも落とさぬよう個人で管理させてください。

３．円盤投の総体・通信大会の参加標準記録の変更

＊男子は総体２３ｍ００、通信２４ｍ００
＊女子は総体２１ｍ００、通信２２ｍ００

４．地域別大会の円盤投と棒高跳のオープン参加方法の変更

＊地域別でのオープン出場者は、計測ラインを１７ｍ００とする。１７ｍ００未満の試技については、計測をしない。

５．棒高跳の通信大会有資格の変更

＊総体の８位入賞者でも、標準記録を突破できなかった選手は、通信大会には出場はできない。

６．支部対抗の女子１，２年砲丸投を１日目に変更

＊投擲種目を円盤投と含めて、両日３種目とし、タイムテーブルと審判員の調整を図るため。

７．支部対抗でのオープン種目の参加資格記録の変更

＊総合体育大会相当の標準記録とする。→男子：２ｍ６０、女子：２ｍ００

８．小学生の都大会出場有資格競技会を追加

＊新たに東日本小学生函館大会とトラックフェスティバル、MDCFINALinTokyo2024（東京陸協主催大会）の男女１５００ｍの記録を追加する。男子は１年１５００ｍ、女子は共通１５００ｍの総体標準記録を突破していれば、有資格者（シード選手）とする。

９．区部・多摩地区のプログラム編成会議開催校の変更

＊未定とする。４月の専門委員会及び、中体連陸上競技専門部ＨＰにて掲載予定。

10．地域クラブ活動における公認記録と参加資格記録の扱いについて

＊２重登録になる場合であっても、大会に出場した「所属」が公認記録となる。３０傑では、クラブ登録をしていても、学校単独で参加した場合には、学校だけの所属となるので、（記録部に確認）→学校名/クラブ名にすることで中体連の所属が学校であることをわかるようにする。また、地域クラブ活動の所属で中体連大会に参加する場合には、個人の記録が資格記録になるが、リレー競技については、中体連登録での競技者以外での資格記録は認められない。(プロ編にて資格審査を行う。)

◎令和７年度の確認事項

１．中体連主催競技会は、学校または、東京都中学校体育連盟への加盟・登録をした地域スポーツ団体等での参加が可能となる。

在籍している学校、または日本陸上競技連盟に登録をしている団体（地域スポーツ団体等）のいずれかで参加することができる。参加地域は学校で参加の場合は現行通り、地域スポーツ団体等で参加する場合は、該当生徒が通う学校の地域とする。(地域別は４地域のいずれか、支部対抗は市区町村)

リレー・駅伝は、学校で参加する場合は現行通り、地域スポーツ団体等で参加する場合は、登録メンバー全員が同一校に在籍している場合に限り、参加することができる。

複数の種目（リレーを含む）に出場する場合、種目によって異なる所属から出場することはできない。

中体連主催の競技会においては、最初の「地域別大会」で出場した所属のみで参加できる。

①選手の出場種目の例：

『開進クラブ』に開進一中、開進四中の選手が所属している。開進一中の生徒である「門脇太郎」が地域別の種目で、「１００ｍ」と「棒高跳」と「共通リレー」で参加する場合

○ 全ての種目を「開進一中」か「開進クラブ」のどちらか一方の所属で出場できる。

× 「１００ｍ」は開進一中、「棒高跳」と「リレー」は開進クラブの所属として分けて出場することはできない。

○ 「リレー」を『開進クラブ』で出場するには、開進一中に所属するクラブ登録者４～６名でエントリーすることができる。

× 「リレー」を『開進クラブ』で出場する場合、開進クラブに所属する違う学校の開進四中の生徒である「上田一郎」をエントリーすることはできない。

②選手のエントリー地区の例：

『倉持オール東京クラブ』に、あきる野西中（多摩西部）、国分寺三中（多摩東部）、開進四中（区部西部）、深川五中（区部東部）の選手が所属している場合

○ あきる野西中の「遠藤次郎」は多摩西部、国分寺三中の「渡辺三郎」は多摩東部、開進四中の「上田四葉」は区部西部、深川五中の「吞口五月」は区部東部でエントリーをするため、クラブ責任者である倉持代表は、地域別の申込一覧表を地域ごとに作成し、それぞれの担当者にデータを送る。

× 上記の４人を一枚の一覧表に作成し、多摩西部でエントリーすることはできない。

③公認記録の扱い

２重登録になる場合であっても、大会に出場した「所属」が公認記録となる。３０傑では、クラブ登録をしていても、学校登録で参加した大会の公認記録については、学校名/クラブ名で表記する。

＊一覧表の公印はクラブの印に代えることができる。（なければ代表者の私印）

＊地域スポーツ団体等から２団体の代表者を専門委員とし、中体連主催大会申込の取りまとめを行うこと。

＊地域スポーツ団体を代表する専門委員は、地区のプログラム編成会議に参加すること。

＊地域スポーツ団体等の監督またはコーチは、必ず１名以上大会の審判を派遣すること。

＊クラブの引率者が地域スポーツ団体等の指導者の場合は指導者資格を有していること。

（例ＪＡＡＦスタートコーチ、ＪＡＡＦジュニアコーチなど）

３．標準記録種目での東西地区の８位同等での都大会出場資格は与えない

例：２、３年女子走幅跳（総体標準記録４ｍ７０）の場合

	１位	２位	３位	４位	５位	６位	７位	８位	９位
東部	○ 5m45	○ 5m32	○ 5m18	○ 5m12	○ 5m08	○ 4m83	○ 4m68	○ 4m63	× 4m61
西部	○ 5m55	○ 5m39	○ 5m28	○ 5m16	○ 5m04	○ 4m91	○ 4m79	○ 4m71	× 4m69

・東部７位・８位は標準記録を突破していないが、８位入賞により出場資格あり。

・西部９位は東部７位・８位よりも記録がよいが、標準記録を突破せず入賞もしていないので出場資格なし。

・地域変更者は、当該地区の８位入賞記録をマークすれば出場資格を与える。(○位相当入賞として賞状が授与された選手)

４．総合体育大会・通信大会の共通種目による関東大会の選考対象について

関東大会の選手選考では、１年生種目と共通種目の同一種目があるものについては、共通種目で選考を行う。１年生種目で好タイムを出しても、レースの条件が異なるため、選考対象にしない。

都大会では、地域別大会の２，３年種目名を共通種目にしているため、都大会の参加標準記録を突破していれば、１年生でも同一種目の共通種目に出場できる。関東大会の選手選考を検討する場合、１年生であっても共通種目にエントリ―することが条件となる。

５．東京都中学校総合体育大会陸上競技大会の都中体連本部の支給品について

	男子						女子
①	１年１００ｍ	⑩	共通１１０ｍＨ	①	１年１００ｍ	⑩	共通棒高跳
②	２年１００ｍ	⑪	共通走高跳	②	２年１００ｍ	⑪	１年走幅跳
③	３年１００ｍ	⑫	共通棒高跳	③	３年１００ｍ	⑫	共通走幅跳
④	共通２００ｍ	⑬	１年走幅跳	④	共通２００ｍ	⑬	共通砲丸投
⑤	共通４００ｍ	⑭	共通走幅跳	⑤	１年８００ｍ	⑭	共通円盤投
⑥	共通８００ｍ	⑮	共通砲丸投	⑥	共通８００ｍ	⑮	共通四種競技
⑦	１年１５００ｍ	⑯	共通円盤投	⑦	共通１５００ｍ	⑯	共通４００ｍＲ
⑧	共通１５００ｍ	⑰	共通四種競技	⑧	共通１００ｍＨ		
⑨	共通３０００ｍ	⑱	共通４００ｍＲ	⑨	共通走高跳		

男子１８種目と女子１６種目は、総合体育大会種目とし賞状とメダルを授与する。
また、全ての種目は選手権種目となり、賞状の授与を行う。

６．地域別大会３，４日目に共通リレー記録突破レース（OP）について

地域別大会３，４日目に地域別突破・共通リレーを追加する。ただし、地域別大会１，２日目に共通リレーの種目で入賞及び、通信大会標準記録を突破している場合には、出場はできない。また、この種目での賞状の授与は行わない。

出場資格は、地域別大会１，２日目に共通リレーにエントリーしたチームのみ、３，４日目に再度エントリ―することができる。

＊これまで通り、都大会前の公認大会での記録突破も認める（3リレーについて　参照）

７．フィールド種目の手拍子

中体連主催大会では、フィールド競技の選手による手拍子は、６回目のみとする。
走高跳の手拍子については、各ピット試技者が４名以下になった３回目の試技の場合とする。

８．大会申込の外字対応について

申し込みファイルの競技者名はすべて、常用漢字で入力する。プログラムには常用漢字で氏名を載せる。ただし、賞状に印刷される漢字は、外字作成申請書（HP掲載）を大会毎に提出する。提出した外字が対応できない場合は、常用漢字か白紙での賞状を希望するかを選択してもらう場合がある。（大会のプログラム編成では、外字対応ができない。個別の修正が短い作業時間では難しいため。）

９．中体連主催大会の競技者、部員、引率者・保護者の来場について

ＡＤカード規制を継続する。ただし、出場者は２日間有効のＡＤカードが発行され、両日競技場に来場することができる。また出場選手のサポートとして各学校２枚の生徒用ＡＤカードを発行する。
引率顧問及び引率保護者もこれまでと同様に競技者数と同数のＡＤカードを各学校配付する。

１０．入場規制について

①２日間の出場者、出場者のサポートする生徒２名、引率者及び引率保護者、応援を希望する保護者のＡＤカードを各団体ごとに配付し、規制する。
②当日の朝３７．５℃以上ある選手の来場は控えるよう周知徹底する。
③ＡＤカードをもった保護者、指導者のみ撮影を許可する。
④生徒による写真・動画の撮影は一切禁止とする。
⑤支部毎の場所取りの割り振りを継続する。

１１．靴底規定について

総体・通信大会は日本陸連の競技規則に合わせる（表参照）が、大会毎の競技注意事項に準じる。

競技	ソールの最大の厚さ
トラック種目、フィールド種目、ハードル種目、障害物競走	20mm スパイクシューズまたは、ノン・スパイクシューズ
道路競技（競走・競歩）	40 mm
クロスカントリー	20mm スパイクシューズ または、40mm ノンスパイクシューズ

１２．通信機器の持ち込みについて

選手の競技エリア内での行動について
携帯電話などの通信機器の持ち込みは規則違反となるため、絶対に持ち込まないようにすること。

１３．フィールド競技試技時間表

フィールド競技の試技時間の扱いについては表を参照すること。

フィールド競技試技時間表（票）

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	―
連続試技※※	2分	3分	2分

※　4人以上または各競技者の最初の競技
※※　走高跳・棒高跳では、残っている競技者が二人以上で同一の高さのみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※※	2分	3分	2分

※　4人以上または各競技者の最初の競技
※※　残っている競技者数に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。